

答 申

令 和 2 年 3 月 3 1 日

千葉県ナイトタイムエコノミー推進審議会

今、我が国は、人口減少や少子超高齢化の進展など、社会構造の大きな転換期に直面しております。

そのような中、「ナイトタイムエコノミー」については、来年に延期になった東京オリンピック・パラリンピックの開催も踏まえ、外国人観光客増加を契機とした、「新たな観光コンテンツ」としての「健全な夜間市場」創出の動きや、先進自治体における様々な取組みが始まっているところであると認識しており、千葉市において、民間事業者が主体となった、新たなナイトコンテンツの創出を行う動きについては、高く評価するものです。

当審議会においては、平成31年4月19日に開催した、第1回審議会にて、支援制度に係る募集要項や審査要領等、募集内容や審査基準について審議をいたしました。

審議内容を反映した募集要領等に基づき、令和元年5月15日から6月28日までの公募を行い、応募のあった6案件につきまして、市からの諮問に基づき、令和元年7月19日に第2回審議会を開催し、書面審査のほか、事業者からのプレゼンテーション及び質疑応答を行い、慎重に審査を行った結果、全件支援するべきであると判断しました。

平成31年度千葉市ナイトタイムエコノミー推進支援事業の一つとして、令和元年8月31日に開催された、昭和の森大花火大会2019の実績報告につきまして、市からの諮問に基づき、令和元年11月5日に実績報告を検討した結果、拡充部分である竹灯籠を使った演出を実施するなど、概ね計画通り実施されたものと認められ、報告された精算額を補助金の確定額とすることが妥当であるものと判断しました。

次に、平成31年度千葉市ナイトタイムエコノミー推進支援事業の一つとして、令和元年10月5日に開催された、千葉みなとイベント「アロハ ホノちば」の実績報告につきまして、市からの諮問に基づき、令和元年11月15日に実績報告を検討した結果、事業収入（出店料）と参加者数が計対比で未達となりましたが、一定の集客があり、参加者や来場者からのロケーションに対する評判が良かったことなどから、今回の支援により新たな夜間のにぎわいの創出や魅力的な景観演出ができたものと認められ、報告された精算額を補助金の確定額とすることが妥当であるものと判断しました。

次に、平成31年度千葉市ナイトタイムエコノミー推進支援事業の一つとして、令和元年11月31日及び12月1日に開催された、ちば富士見屋台横丁の実績報告につきまして、市からの諮問に基づき、令和2年1月10日に実績報告を検討した結果、残念ながら8千人の来店者計画に対して、実績は5千人程となりましたが、前回開催時と比較すると2倍の人数になり、千葉駅から屋台横丁、屋台横丁から千葉のまちに人の流れが出来たものと認められること、また、屋台と提灯の灯りが合わさることで、千葉市中央公園周辺が、通常の夜間とは異なる空間に演出されていたものと認

められることから、報告された精算額を補助金の確定額とすることが妥当であるものと判断しました。

今回、平成31年度千葉市ナイトタイムエコノミー推進支援事業の一つとして、令和元年11月30日から令和2年3月22日まで開催されたYORU MACHIの実績報告につきまして、市からの諮問に基づき、令和2年3月30日に実績の書面確認及び市を通じた事業者のヒアリングを行いました。

実績報告を検討した結果、事業内容及び景観演出方法、プロモーション等については、概ね変更承認申請時の計画通り実施されたものと認められます。

千葉市中央公園に国内最大級の樹脂製スケートリンクを設置することにより、中央公園の夜の雰囲気を変え、今までに見られなかった家族連れや若年層を呼び込み、普段の夜とは異なる都市空間づくりができたことは非常に有意義であると考えております。

開催初年度ということもあり、プロモーション不足と、期間中に発生した新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年3月2日から3月22日まで開催を自粛した影響等が原因で、残念ながら、スケートリンク利用者数が計画対比で未達となったことで、事業収入（スケート・ラウンジ関係売上代）も計画対比で未達となりました。それに伴い、スケート・ラウンジ事業者が自己負担金を追加で出すかたちとなりました。

また、事業外収入（協賛金）も当初計画より得られなかったため、千葉商工会議所が、自己負担金をさらに追加で出すかたちになりました。

ただし、家族連れや若年層などの新たな客層をメインとした一定の集客があり、次年度以降も継続実施し、千葉の夜のイベントとして定着させることで、プロモーション費等の削減が期待できるものと認められます。

また、次年度以降も千葉商工会議所が主体的に同規模の事業を継続実施し、事業収入（スケート・ラウンジ関係売上代）の増加とプロモーション費等を削減することで、今回追加した自己負担金と補助金の分を補う計画をしています。

従って、新規イベントであること及び普段の夜とは異なる都市空間づくりができたこと、そして新たな客層をメインとした一定の集客があり、中央公園を中心に千葉のまちに回遊性を作り出したことなどを考慮し、次年度以降は事業収入の増加とプロモーション費等を削減することで、今回追加した自己負担金と補助金の分を補い、同規模の事業を継続実施することを条件に、補助金交付決定額を減額せず支払うべきであるものと判断しております。

また、実績報告やヒアリングにおいて、事業内容や収支について、確認に困難な点が見受けられたため、次年度以降、主催者が責任を持って、事業内容や収支の細部まで確認・把握することを必須とします。

なお、実績報告における補助金精算額は、補助金交付決定額と同額であり、報告された精算額を補助金の確定額とすることが妥当であるものと判断しております。

また、実績報告の検討及びヒアリングの際に出されました、委員からの意見や要望について、事業者がそのような意見や要望等を活かし、次年度により良いナイトコンテンツを実施することにより、地域経済活性化や千葉市における夜の都市景観造りに資するものとなることを希望します。

別表 YORU MACHI の計画と実績について

		計画		実績		
1	ターゲット	20代～40代、千葉市内外在住・在学・在勤者、千葉県内外在住・在学・在勤者、訪日外国人など		計画通り実施		
2	運営体制	主催・運営：千葉商工会議所 企画・運営サポート：株式会社オニオン新聞社 協力：千葉市中心市街地まちづくり協議会		計画通り実施		
3	事業内容	【日時】11月30日（土）～3月22日（日）		【日時】11月30日（土）～3月22日（日） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月2日（月）～3月22日（日）まで開催自粛		
		【場所】千葉市中心市街地 （参考） https://www.city.chiba.jp/shisetsu/koen/0212.html		計画通り実施		
3	事業内容	【メインコンテンツ】 観合イベント11月30日（土）～3月22日（日） ・スケートリンク 【平日】13:00～22:00（21:00受付終了） 【土日祝】11:00～22:00（21:00受付終了） ・イルミネーションラウンジ 【平日】13:00～22:00（21:00受付終了） 【土日祝】11:00～22:00（21:00受付終了） ・（プロモーション）YORU MACHI 第九コンサート in JR千葉駅 2月16日（日）14:00～14:20・15:00～15:20 ・（参考）音楽パレード 11月30日（土）16:00～ ・（参考）オープニングセレモニー 11月30日（土）17:00～ 「光」でつなぎ、街の景観非日常的な観光コンテンツにすることで話題を喚起するとともに、中央公園を有効活用したスケートリンクの設置により、普段とは異なる景観を演出し、中心市街地の商店街や店舗等への誘客の効果を高める。		概ね計画通り実施 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月2日（月）～3月22日（日）まで開催自粛		
		4	収支	収入	事業収入 25,286千円 事業外収入 16,000千円	事業費における割合 45% 事業費における割合 28%
4	収支	支出	ソフト事業 補助金額 2,500千円 ハード事業 補助金額 2,500千円 対象外経費 6,149千円	補助対象経費 29,237千円 補助対象経費 20,900千円	補助金額 2,500千円 補助金額 2,500千円	補助対象経費 27,169千円（千円未満切捨） 補助対象経費 16,743千円（千円未満切捨）
		合計	補助合計金額 5,000千円 事業費合計 56,286千円	補助合計金額 5,000千円 事業費合計 55,047千円（千円未満切捨）	11,134千円（千円未満切捨）※パレード関連費用、消費税等	
5	来場者数	300,000人（県内250,000人、県外50,000人）		YORU MACHI 総来場者数：約36.6万人（千葉都心イルミネーション事業の通行量調査による） <内訳> （1）千葉都心イルミネーション来場者数：約35万人（推定） （2）【プロモーション】YORU MACHI 第九コンサート in JR千葉駅：延べ約1,000人 （3）オープニングセレモニー開催日（11/30）来場者数（音楽パレード込）：延べ約15,000人 （参考）スケートリンク利用者数：11,432人（大人5,781人、小人5,651人）		
6	経済効果及び事業効果	中央公園を有効活用したスケートリンク等の設置により、街全体の集客機能を高め、滞在時間を延ばす仕組みを作ることによって地域への経済波及効果が期待できる。		・千葉市中央公園に屋外樹脂製リンクとして国内最大級となるスケートリンクを設置することで、普段の夜とは異なる都市空間づくりができた。 ・中央公園の夜の雰囲気を変え、今までに見られなかった家族連れや若年層を呼び込むことができ、期間中に11,432人（売上14,069千円）が利用した。 ・開催初年度ということもあり、準備期間の短さの影響から集客への十分なアプローチとは至らず、同様に企業協賛金についても目標額を下回ったことで、千葉商工会議所が計画対比で、130千円の自己負担金を追加で支出。 ・期間中に発生した新型コロナウイルスの影響もあり、スケート及びラウンジ事業者が計画対比で4,242千円の自己負担金を追加で支出。 ・近隣に店舗を構える飲食店が、自慢のグルメを提供するイルミネーションラウンジ（売上2,894千円）を設置したほか、中心市街地の店舗を紹介するガイドブックを配布することで、近隣店舗への波及効果を生み、中央公園を中心に千葉のまちに回遊性を作り出した。		
7	景観演出方法	・スケートリンクの設置（中央公園） ・イルミネーションラウンジの設置（中央公園）		計画通り実施		
8	スケジュール	【全体】 7月中旬：実行委員会設立 8月下旬～10月中旬：関係機関との協議・許可申請 11月30日（土）～3月22日（日）：事業実施 【スケートリンク】 11月中旬～11月下旬：工事 11月30日（土）～3月22日（日）：開催 【イルミネーションラウンジ】 9月上旬～10月中旬：キッチンカー選定 11月30日（土）～3月22日（日）：開催 【（参考）パレード】 8月上旬～9月上旬：参加者募集 10月上旬～11月上旬：広報 11月30日（土）：開催		計画通り実施 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月2日（月）～3月22日（日）まで開催自粛		
9	次年度以降	継続開催に向けた事業の見直しおよび拡充の検討		・集客及び事業収入を増加させる対策として、スケートリンクの面積を拡大することで、話題性を高めるとともに、滑走者による混雑を緩和し、滑走時の混雑を放逐していたお客様を取りこぼさず取り込んでいく。 ・WEBサイトやSNSを活用したプロモーションと、ポスターやチラシ、口コミなどの地道なプロモーションの両方を継続するとともに、今年度プロモーションとして実施した第九コンサートのようなイベントを開催し、YORU MACHI の認知度向上と中央公園への集客、事業収入（スケート・ラウンジ関係売上代）の増加を図る。 ・今年度のYORU MACHI 事業の集客効果・実績等を周辺の商店街・個店に示すことで、周辺の事業者と協議し、相乗効果を図れるような取組を実施するとともに、引き続き千葉商工会議所のネットワークを駆使し、事業外収入（協賛金）の安定確保に努める。 ・今年度、新たな客層（家族連れや若年層）をメインとした一定の集客があり、来年度以降も継続して実施し、千葉の夜のイベントとして定着させることで、集客及び事業収入（スケート・ラウンジ関係売上代）の増加とプロモーション費等の削減が期待できる。 ・次年度以降も千葉商工会議所が主体的に同規模の事業を継続実施する。 ・事業収入（スケート・ラウンジ関係売上代）の増加とプロモーション費等を削減することで、今回追加した自己負担金分と補助金の分を補う。		
10	プロモーション	・専用WEBサイトの設置 ・Google広告 ・ポスター掲示 ・千葉市内の幼稚園・小学校・中学校へのパンフレット、アイススケートチケット（無料券）の配布 ・千葉市公式ツイッター等 プロモーションの一環として、「YORU MACHI 第九コンサート in JR千葉駅」を開催（2月16日（日）14:00～14:20・15:00～15:20）		計画通り実施		